

中国読書人の政治と文学

林田愼之助博士  
古稀記念論集編集委員会

林田 慎之助博士  
古稀記念論集編集委員会

# 中国読書人の政治と文学

創文社刊

〔中国読書人の政治と文学〕

二〇〇二年一月一日 第一刷印刷  
二〇〇二年一月六日 第一刷発行

編者 林田愼之助博士古稀  
記念論集編集委員会

発行者 久保井浩俊  
印刷者 藤原良成

発行所 株式会社 創文社

〒103-8233  
東京都千代田区麹町二一六一七  
電話 〇三-三三六三-七二〇一  
振替 〇〇二〇〇九四七二  
<http://www.sobunsha.co.jp>

編者との申し合せにより検印省略 藤原印刷・鈴木製本

ISBN4-423-90025-4

Printed in Japan

林田愼之助博士 略年譜

昭和七年（一九三二）

一〇月六日 福岡県飯塚市に生まる

昭和二六年（一九五一）

三月 福岡県立嘉穂高等学校を卒業

昭和二八年（一九五三）

四月 山口大学文理学部中国文学科に入学 主任教授は青木正児博士

昭和三二年（一九五七）

三月 山口大学文理学部中国文学科を卒業

四月 夕刊フクニチ新聞社編集局に入社

一二月 夕刊フクニチ新聞社を退社

昭和三三年（一九五八）

四月 九州大学大学院文学研究科修士課程に入学 主任教授は目加田誠博士

昭和三五年（一九六〇）

三月 九州大学大学院文学研究科修士課程を卒業

四月 九州大学大学院文学研究科博士課程に入学

昭和三八年（一九六三）

三月 九州大学大学院文学研究科博士課程を修了

四月 九州大学文学部助手となる

昭和四〇年（一九六五）

四月 福岡学芸大学田川分校講師・小倉分校講師を併任

一月 福岡学芸大学助手福岡分校に転任

昭和四二年（一九六七）

一月 福岡教育大学講師に昇任

昭和四四年（一九六九）

九月 佐賀大学教育学部講師（集中講義）を併任

一〇月 福岡教育大学助教授に昇任

昭和四六年（一九七二）

一〇月 九州大学文学部中国文学講座助教授に転任

同 九州大学大学院文学研究科担当助教授となる

同 福岡教育大学教育学部講師を併任（昭和五六年まで福岡教育大学教育学部併任講師を継続）

同 久留米工業高等専門学校校講師を併任

昭和四七年（一九七二）

四月 九州大学教養部講師を併任

七月 長崎大学教養部講師（集中講義）を併任

昭和四八年（一九七三）

四月 長崎大学教養部講師（集中講義）を併任

昭和四九年（一九七四）

四月 長崎大学教養部講師（集中講義）を併任

昭和五二年（一九七七）

四月 佐賀大学教育学部講師（集中講義）を併任

昭和五三年（一九七八）

七月 佐賀大学教育学部講師（集中講義）を併任

同 梅光女学院大学大学院文学研究科講師（集中講義）を兼任

昭和五四年（一九七九）

七月 梅光女学院大学大学院文学研究科講師（集中講義）を兼任

一〇月 高知大学人文学部講師（集中講義）を併任

一二月 佐賀大学教育学部講師（集中講義）を併任

昭和五五年（一九八〇）

七月 梅光女学院大学大学院文学研究科講師（集中講義）を兼任

九月 『中国中世文学評論史』の研究により、九州大学で文学博士の学位を授与される

昭和五六年（一九八一）

一〇月 オランダのライデン大学に国費留学を命ぜらる

昭和五七年（一九八二）

一〇月 神戸女子大学文学部教授に転任

昭和六〇年（一九八五）

四月 高野山大学客員教授となる 『定本弘法大師全集』第六巻『文鏡秘府論』の編纂を委嘱さる

一月 東北大学文学部講師（集中講義）を併任

昭和六二年（一九八七）

六月 「東大中国学会」評議員となる

一月 神戸大学文学部講師（集中講義）を併任

昭和六三年（一九八八）

四月 神戸女子大学大学院文学研究科修士課程設立に伴い、担当教授となる

平成 五年（一九九三）

四月 神戸女子大学大学院文学研究科博士課程設立に伴い、担当教授となる

平成 六年（一九九四）

六月 「東大中国学会」の改組に伴い 「中国社会文化学会」評議員となる

同 母校福岡県立嘉穂高等学校文化祭の講師に招かれ「魯迅と蘭方医の心」と題して講演

平成 九年（一九九七）

四月 「六朝文学術学会」常任理事・論文審査委員となる

平成一四年（二〇〇二）

一〇月六日 古稀を迎う

# 林田愼之助博士 著作目録

## 単行書

|             |     |                      |      |
|-------------|-----|----------------------|------|
| 昭和五四年(一九七九) | 二月  | 中国中世文学評論史            | 創文社  |
| 昭和五六年(一九八一) | 二月  | 魯迅のなかの古典             | 創文社  |
| 昭和五八年(一九八三) | 二月  | 柳宗元 集英社              |      |
| 昭和五九年(一九八四) | 五月  | 司馬遷 集英社              |      |
| 昭和六一年(一九八六) | 五月  | 諸葛孔明 集英社             |      |
| 昭和六二年(一九八七) | 五月  | 北京物語 集英社             |      |
| 平成元年(一九八九)  | 一〇月 | 覇者の条件 (人間三国志全六巻の第一巻) | 集英社  |
|             | 十一月 | 軍師の采配 (人間三国志第二巻)     | 集英社  |
|             | 十二月 | 豪勇の咆哮 (人間三国志第三巻)     | 集英社  |
| 平成二年(一九九〇)  | 一月  | 民衆の反乱 (人間三国志第四巻)     | 集英社  |
|             | 二月  | 詩人の憂鬱 (人間三国志第五巻)     | 集英社  |
|             | 三月  | 竹林の七賢 (人間三国志第六巻)     | 集英社  |
| 平成四年(一九九二)  | 七月  | 中国文学の底に流れるもの         | 創文社  |
| 平成六年(一九九四)  | 三月  | 三国志 風と雲と龍            | 集英社  |
|             | 四月  | 孔明の人材学               | ごま書房 |

- 平成 九年（一九九七） 三月 文鏡秘府論（三寶院本底本校勘、『定本弘法大師全集』第六卷） 高野山大学密教研究所  
 平成一〇年（一九九八） 一月 「文鏡秘府論」校勘考 高野山大学  
 平成一一年（一九九九） 二月 漢詩をたのしむ 講談社  
 平成一三年（二〇〇一） 九月 中国文学 その心の風景 創文社  
 平成一四年（二〇〇二） 一〇月 タオⅡ「道」の思想 講談社

# 論文・随筆

- 昭和三三年（一九五八） 一一月 嵇康評伝 「中国文芸座談会ノート」一一号  
 昭和三四年（一九五九） 一一月 嵇康詩の飛翔のイメージ 「中国文芸座談会ノート」一二号  
 昭和三五年（一九六〇） 五月 阮籍詠懷詩考―その孤絶の意識 「九州中国学会報」第六卷  
 昭和三六年（一九六一） 六月 郭璞に於ける詩人の運命 「九州中国学会報」第七卷  
 昭和三七年（一九六二） 一〇月 顔之推の生活と文学観 「日本中国学会報」一四集  
 同 漢魏六朝文学論にあらわれた情と志の問題 『目加田誠博士還暦記念中国学論集』大安書店  
 昭和三八年（一九六三） 五月 朱熹『楚辞集註』制作の動機 「九州中国学会報」第九卷  
 昭和三九年（一九六四） 二月 南朝放蕩文学論の美意識 「東方学」第二一輯  
 昭和四〇年（一九六五） 一〇月 魏晋六朝文学に占める張華の座標 「日本中国学会報」一七集  
 昭和四二年（一九六七） 九月 中国の文学評論 （中国文化叢書第四卷『文学概論』大修館書店  
 一〇月 『文心雕龍』文学原理論の諸問題 「日本中国学会報」一九集  
 昭和四三年（一九六八） 八月 蕭綱の「湘東王に与える書」をめぐって 「中国中世文学研究」第七号

- 昭和四七年（一九七二）  
一〇月 裴子野「雕蟲論」考証 「日本中国学会報」二〇集
- 昭和四八年（一九七三）  
一〇月 魯迅のなかの嵇康 「野草」第九号
- 昭和四九年（一九七四）  
三月 韓愈における発憤著書の説 「文学研究」（九州大学文学部紀要）第七〇輯  
二月 唐代の散文と文学運動 「東書国語」一二七号 東京書籍  
三月 両漢魏晋の辞賦論に流れる文学思想 「文学研究」（九州大学文学部紀要）第七一輯  
七月 朱子の文芸論 『朱子学入門』明徳出版社
- 昭和五〇年（一九七五）  
一〇月 左思の文学 『目加田誠博士古稀記念中国文学論集』竜溪書舎  
二月 青木正児先生の羽織 『青木正児全集』第一〇巻月報 春秋社
- 昭和五二年（一九七七）  
三月 葛洪の文芸論 「文学研究」（九州大学文学部紀要）第七四輯  
四月 志怪と駢文の世界 『魏晋南北朝の世界（岡崎敬著）』月報 講談社  
五月二六日 日中共通の「略字」づくり批判 「西日本新聞文化欄」
- 昭和五三年（一九七八）  
一〇月 唐代古文運動の形成過程 「日本中国学会報」二九輯  
一月二一日 中国文学の底に流れるもの 「西日本新聞文化欄」  
三月 『典論』論文と「文賦」 「文学研究」（九州大学文学部紀要）第七五輯  
六月 鍾嶸の文学理念 「中国文学論集」第七号
- 昭和五四年（一九七九）  
一〇月 亀井昭陽の『古序翼』『亀井南冥・昭陽全集第二巻』葦書房  
八月 亀井昭陽の『傷逝録』 『亀井南冥・昭陽全集第六巻』葦書房
- 昭和五五年（一九八〇）  
九月 亀井南冥の詩文集 『亀井南冥・昭陽全集第八巻上冊』葦書房  
一〇月 志怪小説の真実 「創文」一九三一・一九八号 創文社  
十一月 魯迅 その小説の思想 「中国文学論集」第九号

昭和五十六年（一九八一）  
二月 前野良沢の腑分け 「朝花夕拾」第三号  
三月 ひとつの魯迅とのかかわり 「創文」二〇六号 創文社  
八月二六日 古典文学者魯迅の復権 「朝日新聞学芸欄」

昭和五十七年（一九八二）  
二月 柳河東柳州抒情考 『荒木見悟教授退休記念中国哲学史研究論集』葦書房  
三月 魏晉六朝の志怪小説にみえる女性像 『中国文学の女性像』汲古書院  
昭和五十八年（一九八三）  
五月 果たさざるの記 「創文」二二三号 創文社

昭和五十九年（一九八四）  
一〇月 嚴羽の詩学 『小尾郊一博士古稀記念中国文学論集』汲古書院  
一二月 竜野と『司馬遷』 『司馬遷』自著あとがき 集英社  
昭和六〇年（一九八五）  
一月 亀井南冥と頼春水 「創文」二五二号 創文社  
三月 亀井南冥と広瀬淡窓 「創文」二五三号 創文社  
四月 亀井南冥と原古処 「創文」二五四号 創文社  
五月 亀井南冥と昭陽 「創文」二五五号 創文社  
七月 亀井南冥と雲華上人 「創文」二五七号 創文社  
八月 亀井南冥と田能村竹田 「創文」二五八号 創文社

昭和六一年（一九八六）  
三月 大井広介氏のふるさと 『写真万葉録・筑豊（上野英信編）』月報 葦書房  
五月 仙台と『諸葛孔明』 『諸葛孔明』自著あとがき 集英社  
五月 土浦と『北京物語』 『北京物語』自著あとがき 集英社  
昭和六二年（一九八七）  
六月 東方朔の滑稽説話 「東書国語」二七三号 東京書籍  
八月 郭璞の詩人説話 「東書国語」二七五号 東京書籍  
一〇月 蔣済の冥途説話 「東書国語」二七七号 東京書籍

昭和六三年（一九八八）

一〇月 韓愈と吉川幸次郎先生 『韓愈（清水茂訳）』月報 筑摩書房

一二月 陸機の望郷説話 「東書国語」二七九号 東京書籍

二月 田横の挽歌説話 「東書国語」二八一号 東京書籍

四月 嵇康の琴曲説話 「東書国語」二八三号 東京書籍

七月 わたしの中国点描 「青春と読書」集英社

六月 諸葛亮と荀彧・孔融 「中国―社会と文化」三号

平成 元年（一九八九）  
平成 二年（一九九〇）

三月 天安門と『人間三国志』 「竹林の七賢」（人間三国志第六巻）自著あとがき 集英社

同 官渡と赤壁の両決戦 「歴史群像シリーズ」一七号 学習研究社

四月 英雄たちの死 「歴史群像シリーズ」一八号 学習研究社

八月 或る『三国志』の風景 「青春と読書」八月号 集英社

九月 魯迅と北京の下宿 「週刊 百科世界の歴史」九四 朝日新聞社

平成 三年（一九九一）

三月三日 私の『三国志』考 「聖教新聞学芸欄」

四月 近代中国の暗部を照射―作家魯迅 「週刊 百科世界の歴史」一二三 朝日新聞社

六月一〇日 諸葛孔明像の変遷 「産経新聞文化欄」

八月 三国時代の辺境異民族の動向 「歴史読本ワールド」八月号 新人物往来社

同 諸葛一族の光と影―色褪せぬ忠誠心 「歴史読本ワールド」八月号 新人物往来社

同 五丈原撤収後の蜀軍の内紛―文治派と武闘派の争い 「歴史読本ワールド」八月号 新人物往来社

同 上野英信さんを憶う 「創文」三二四号 創文社

九月 足立巻一さんのこと 「創文」三二五号 創文社

平成 四年（一九九二）

一月 日本の橋 「潮」 十一月号 潮出版社

一月 軍師の時代 「歴史群像」 創刊号 学習研究社

二月 問われた孔明の統率力 「歴史と旅」 二月号 秋田書店

四～七月 司馬遷の歴史と文学 全四回 「月刊 国語教育」 四～七月号 東京法令出版

五月 三英傑比較論―曹操・劉備・孫權 「歴史群像シリーズ」 二八号 学習研究社

五月一四日 曹丕と曹植 「聖教新聞文化欄」

六月 正義漢曹操の登場 「ザ・ビッグマン」 六月号 世界文化社

八月 『三國志』の国勢調査 「ザ・ビッグマン」 八月号 世界文化社

一〇月 孔明と劉備玄德―水の徳を生きる 「プレジデント」 一〇月号 プレジデント社

十一月 孔明の「終身の計」 「ザ・ビッグマン」 十一月号 世界文化社

同 老子―「大私」に生きる思想 「プレジデント」 十一月号 プレジデント社

十二月 唐に学んだ日本文化の原点 「歴史群像」 一二月号 学習研究社

平成 五年（一九九三）

一月 曹魏政権の人材登用法 「清談」 一月号

三月 詩経―現実参加の伝統的詩精神 「プレジデント」 三月号 プレジデント社

四月 曹操と荀彧―「清流」派知識人の群像 「月刊 Asahi」 四月号 朝日新聞社

一〇月 史記―逆境を生きた者への賛歌 「プレジデント」 一〇月号 プレジデント社

平成 六年（一九九四）

五月 三国志の文化交流 「歴史読本」 五月号 新人物往来社

同 儒教・党綱の禁 「歴史読本」 五月号 新人物往来社

六月 三国志の旅 「龍王」 六月号

六月八日 書評『洛中洛外漢詩紀行』（生田耕作・坂井輝久共著）「聖教新聞読書欄」

平成 七年（一九九五）

三月 「寄らば大樹の蔭」を排す 「潮」三月号 潮出版社

六月 五丈原慕情 「龍王」六月号

七月 魯迅と蕭清された文学―書評『現代中国の政治と文学』（小山三郎著）「法学研究」第

六八巻七号 慶応大学法学研究会

九月三日 長江を下る 「聖教新聞文化欄」

―二月 中国読書人の政治と文学 「創文」三七二号 創文社

平成 八年（一九九六）

二月 三国志の詩人たち 『三国志旅行ガイドブック』光栄出版部

三月一九日 日本漢学の伝統 「聖教新聞文化欄」

六月 魯迅と蘭方医の心 「龍王」六月号

八月 藤野巖九郎記念館を訪ねて 「創文」三七九号 創文社

平成 九年（一九九七）

三月 世説新語―風流の詩魂を描く逸話集 「しにか」三月号 大修館書店

同 空海の『文鏡秘府論』 『定本弘法大師全集第六巻』高野山大学密教文化研究所

五月 酒家「源平」のつどい 「月刊健康」五月号 月刊健康社

六月 司馬遼太郎さんのはがき 「龍王」六月号

九月一三日 魯迅と中国文学史 「聖教新聞文化欄」

―一〇月 唐代伝奇の変身譚 「しにか」一〇月号 大修館書店

平成一〇年（一九九八）

三月 魯迅 そして中国の現代 「CEJ」四四号 大阪ガスエネルギー文化研究所

同 世説新語の清議と清談 「学林」二八・二九号

六月 大井廣介氏の『ちゃんばら芸術史』 「龍王」六月号

八月 唐代転換期の文学―書評『中唐文学への視角』（松本肇・川合康三編）「創文」四〇一

号 創文社

一〇月 唐僧皎然の詩論 『日本中国学会創立五〇年記念論集』汲古書院

十一月 『文鏡秘府論』の巻立て編成考 『文鏡秘府論』校勘考』高野山大学

同 小西甚一氏の『文鏡秘府論考攻文篇』の三宝院本に関する校異批正について 『文鏡

秘府論』校勘考』高野山大学

十二月 豊後日田と広瀬淡窓 「食物と健康」一二月号

平成二一年(一九九九)

二月 上善如水 「月刊 健康」二月号 月刊健康社

五月 詩人城尾徳昭君の死 「朝花夕捨」五月号

六月 セーヌのほとりで 「龍王」六月号

八月一七日 江戸漢詩人のダンディズム 「聖教新聞文化欄」

平成二二年(二〇〇〇)

二月 六朝の史家と志怪小説―裴松之の『三国志』注引の異聞説話をめぐって 「立命館大  
学」第五六三号

一〇月 晋書―世をすねた七賢の抵抗 「しにか」一〇月号 大修館書店

平成二三年(二〇〇一)

七月 中国の偽書 「言語」七月号 大修館書店

八月 魍魎魍魎の世界におののく 「しにか」八月号 大修館書店

十二月 鬼におののき親しむ嘶 「風神」一二号

平成二四年(二〇〇二)

三月 先師群像―私の忘れ得ぬ人々 「創文」四四〇号 創文社

一〇月 今なぜ老子のタオなのか 「本」三一六号 講談社

# 目次

林田愼之助博士 略年譜・著作目録…………… i

「古今」と「夏夷」…………… 大久保隆郎…………… 三

「夢中得句」をめぐる——中国詩学における〈内部〉と〈外部〉、〈自己〉と〈他者〉…………… 浅見 洋二…………… 三

阮籍「詠懷」詩の語り手…………… 安藤 信廣…………… 四

日付を刻む——陶淵明小論…………… 大上 正美…………… 九

陶淵明〈桃花源記〉小考——「世俗」と「超俗」のあいだに…………… 門脇 廣文…………… 一〇

寓意としての『易』の用法に見る陶淵明と謝靈運…………… 沼口 勝…………… 一三

沈約の短句の詠物詩について…………… 今場 正美…………… 一七

『宋書』謝靈運伝について——沈約『宋書』における表現者称揚の方法…………… 稀代麻也子…………… 一六

文選の成立と流伝…………… 興膳 宏…………… 一五

文選李善注の性質…………… 清水 凱夫…………… 二三

『相貝経』攷——服食派方士と宝貝…………… 亀田 一邦…………… 三五

|                                       |           |     |
|---------------------------------------|-----------|-----|
| 宦遊と吏隠……………                            | 川合康三…………… | 二六  |
| 生業をうたう浣花草堂時代の杜甫……………                  | 古川末喜…………… | 二六三 |
| 杜甫における二つの空間構図……………                    | 朱捷……………   | 三〇  |
| 元稹の政治と文学……………                         | 赤井益久…………… | 三四  |
| 劉禹錫の寓言詩……………                          | 松本肇……………  | 三四五 |
| 令狐楚を通して見る元和の文学……………                   | 愛甲弘志…………… | 三七七 |
| 杜牧「茶煙輕颺落花風」(題禪院)——去声の「調値」と近体詩の韻律…………… | 松浦友久…………… | 三九八 |
| 詩人の墓——中晚唐期における前代の詩人評価に関して……………        | 二宮俊博…………… | 四〇七 |
| 朱子は祖述者であつたか……………                      | 小宮厚……………  | 四四四 |
| 「漢の寿亭侯」……………                          | 中川諭……………  | 四四九 |
| 清代中期の「文人」批評——章学誠と趙翼の場合……………           | 中嶋隆藏…………… | 四七三 |
| 石玉崑による包公説話の改編……………                    | 阿部泰記…………… | 四九八 |
| 「献身」と「裏切り」——三十年代魯迅の場合……………            | 丸尾常喜…………… | 五一八 |
| 胡風と徐懋庸——魯迅をめぐる人々……………                 | 山田敬三…………… | 五三三 |
| 梁実秋批判に見る国共関係のなかの政治、文学……………            | 小山三郎…………… | 五四  |
| 詩人の軌跡——聞一多晩年の民主運動と文学観……………            | 牧角悦子…………… | 五七四 |